

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 024	提案機関名 一般社団法人神奈川県畜産会
要望問題名 飼料コスト削減のためのアミノ酸含有量下限値飼料の給与による鶏等への影響調査	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 飼料コストの削減の観点から、飼料のアミノ酸含有量をどの位低減できるかその下限値を把握し、その下限値での飼料給与による鶏の発育並びに生産物の品質への影響を調査する。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>配合飼料価格の値上げが続く中、今後はさらに飼料効率を向上させ、飼料コストの削減を図ることが求められます。</p> <p>アミノ酸を含め、飼料の養分要求量は日本飼養標準に成長ステージ毎に示されており、鶏の体重、環境温湿度、羽装状態、鶏種などの因子が影響します。よって養分要求量の下限値には様々な要因が関与しています。</p> <p>ご要望いただいた飼料中のアミノ酸含有量以外にも鶏の発育や生産物に影響を与える要因があることから、実態を調査した上で飼料コストの削減につながる課題の設定を検討します。</p>		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考	日本飼養標準家禽（2011年版）中央畜産会		